# 母島太陽光発電所設備設置事業　村民説明会での主な質問と回答

１．日　時：１回目　令和６年９月５日（木）16:00～17:00
　　２回目　令和６年９月５日（木）18:30～19:30

２．参加者

説明側：東京都産業労働局、東京電力パワーグリッド株式会社、東光電気工事株式会社、小笠原村環境課

住民出席者数：１回目３名、２回目５名

３．質問と回答

（１）実証・運用について

Q　なぜ母島で実証事業を行うことになったのか。

A　母島の人口は約 400 人であり、電力使用量から再生可能エネルギー（以下「再エネ」という。）100％の実現が可能と判断した。
また、内地から最も遠い島なので、ディーゼル発電と太陽光発電の二つを用意することでレジリエンスの向上を図りたいと考えた。

Q　実証期間は何年間か。本格運用はいつから開始か。

A　実証期間は３年間を予定している。
実証事業の開始は令和７年７月を予定している。

Q　本格運用後のディーゼル発電の稼働状況について教えてほしい。

A　ディーゼル発電の稼働は、１年間の換算で半分程度に減る見込み。

Q　宮古島では稼働されないままとなっているメガソーラーがあると聞く。本事業は持続性があるのか。

A　東京電力パワーグリッドが電力供給義務者として、ディーゼル発電と併用して、しっかり運用していく。

Q　工事に伴う道路の通行止めはいつか。

A　令和６年 10 月１日～11 月 11 日の期間中、１日１～２時間程度通行止めを行う。
通行止めを行う際は、事前周知を別途行う。

Q　運用開始によって住民生活にどのような影響があるか。

A　住民生活への影響は生じない。パネルで発電した電気も既存の送電線を使って送電することになる。

Q　太陽光パネル設置後の景観が気になる。

A　太陽光パネルが見えないよう周囲に木を植える等の対応は行っていく。

Q　父島で母島と同様の実証事業を行う予定はないのか。

Ａ　現時点で行う予定はない。

**（２）設備の安全性・火災対応について**

Ｑ　火災への備えとして訓練計画の説明があったが、蓄電池棟についてハード面の対策は何か行っているか。

Ａ　蓄電池については、日本製の安全性の高いものを使用している。また、蓄電池棟については、消防法令に基づいた構造としている。

Ｑ　火災対応について消防団にまだ周知されていない。

Ａ　東京消防庁が来島するタイミングで勉強会を実施することを考えている。

　令和６年度に座学講習、令和７年度に火災訓練をそれぞれ２月に行う方向で調整を進めていく。

Ｑ　初期消火は東電が対応するとのことだが、火災発生時は消防団へ迅速に連絡してほしい。

Ａ　承知した。

**（３）Ｃサイトについて**

Ｑ　オガサワラカワラヒワ（以下「オガヒワ」という。）の保全のためＣサイトでの開発が延期となっているが、現状はどうなっているか。

Ａ　オガヒワの状況について有識者の意見を聴きながら対応を協議中。Ｃサイトを含む開発の方向性に変わりはないが、オガヒワ保全との両立が前提。なお、ＡＢサイトのみでの運用も可能である。

Ｑ　本事業では再エネ 100％での電力供給を目指していると思うが、Ｃサイトがなくても可能か。

Ａ　ＡＢサイトのみでの太陽光発電の場合、１年のうち半年程度を視野に太陽光発電のみで電力供給が可能である。

　Ｃサイトを加えた場合、年間の約７割を再エネ 100％で電力供給できる。

Ｑ　Ｃサイトの代替地は探しているのか。

Ａ　代替地は探していない。

Ｑ　Ｃサイトの代替地として、都営住宅の屋上へ太陽光パネルを設置してはどうか。

Ａ　現状は都営住宅の屋上等に太陽光パネルは設置されていないが、今後予定している建替えのタイミングで屋上に小規模な太陽光パネルを設置する。なお、廊下の照明等共用部に電気を供給し、個別宅への電気の供給は行わない。

**（４）土壌対策等について**

Ｑ　太陽光パネルについては、説明資料（スライド No.22、26）の設置図と同様の配置になるのか。

Ａ　設置図とほぼ同様の完成を見込んでいる。

Ｑ　太陽光パネル下のコンクリート敷設とコンクリートの養生はいつ実施するのか。
Ａ　太陽光パネル設置後にコンクリート敷設し、その後にコンクリートの養生を実施する。
Ｑ　赤土を含んだ雨水がＵ字溝を通して御幸之浜に流れ出さないか。
　　最終地点に布団かごが設置されていないと思うが大丈夫か。
Ａ　現在工事中のため赤土の移動が多くなっているが、工事終了後は緑化・草地により、根が赤土の移動を極力少なくする。
　　また、布団かごは最終地点だけでなく、各所に設置している。
Ｑ　草地の創出のため種をまくとのことだが、種は在来種か。
Ａ　母島の在来種を用いたいが種類が少ないため、管理しやすく侵略しない種をまく予定である。植物の専門家からも指導を受けており、運用後も継続管理していく。
Ｑ　杭を打つだけで太陽光パネルを支えられるのか。
Ａ　杭先端が広がる構造のため問題ない。引抜試験により確認をしている。

**（５）作業員用宿舎について**

Ｑ　作業員用宿舎は工事終了後どうなるのか。
Ａ　作業員用宿舎は工事終了後、解体撤去する。跡地は小笠原村による宅地分譲の予定地となる

**（６）ＢＣＰについて**

Ｑ　送電線の地中化等の台風対策は実施しているのか。
Ａ　台風対策でもある電線地中化は都の事業であり、本事業と併せて実施している。
Ｑ　地中に電線を埋めた場合、津波で水没してしまう恐れがある。
　　架空線のほうが復旧しやすいのではないか
Ａ　津波被害からの復旧面では、地中及び架空どちらもメリット・デメリットがあるのは事実である。

**（７）その他ご意見**

○　本事業の経緯や説明会を行っている経緯を改めて説明したほうがよいのではないか。
○　本事業の遅延は島民の生活にも関わるため、円滑に進めてほしい。

以　上